幕末維新懐古談

矮鶏の製作に取り掛かったこと

高村光雲

青空文庫

かれこれ批評を聞いたり、姿形を研究したりしている間に、一月余りも経ってしまいましたので、いよいよ取り掛かることにしました。

材は桜です。その時分はまだ桜の材で上等のものが沢山あったが現今では甚だ稀です。南部の方から出るのが良材であります。まず、雄鶏の方から初めました（木彫りの順序は鑿打ちで形を拵え、鑿と小刀で荒彫り、それから小作り、仕上げとなる）。無駄をしていたわけではないが、前述のような次第で思わず時日を費やしたので、随分精出してやりましたけれども、その年の十二月の末になってやっと小作りが出来た位でした（仕事の順序からいうと、この小作りというのは荒彫りと仕上げの間となる）。十二月の末といえば若井氏と約束の日限でありますから、当然ならば全部出来上がっていなければならない所であるが、器械的の仕事と違ってこういう側の仕事は、そう日限通りに参るわけには行かない。それも自分で怠惰していればとにかく、毎日精を出して一生懸命やって見て、やっと此所まで来たのでありますから、どうも仕方がありません。

といって日限が来たのですから、そのまま、打っちゃって置くわけには行かない。それに若井氏の心持も分って私もその厚志に感じてやっている仕事であるから、いずれにしろ、御返事をしなければならないが、返事をするとなると、申し訳をするよりほかない。訳を話して日限に間に合わなかったことをいって、以前受け取った手附けの金をお返しするよりほかはないのでありますから、私は考えを決め、二十一年の十二月の大晦日の晩、手附けの金を懐にし（この金は封を切ったまま手箪笥の抽斗に入れて手を附けずに置きました。万一間に合い兼ねた時、これがなくなっていては申し訳が立たないから）、荒彫りのまま、チャボを風呂敷に包み、てくてく南鍋町の若井氏の宅を訪ねました。

「その後はどうしました。時に、御願いしてあった鶏は出来ましたか」

というようなことになりました。

私は、その後の製作の経過を物語り、とうとう日限に遅れた旨をお詫びし、手附けの金をお返しして一時前の契約を解いて頂き……彫りかけては置きません、いずれ仕上げます。出来上がれば是非御覧に入れます、その時御意に入ったら御取り置き下さい。とにかく、御約束を無にしたのは私が悪いのですと若井氏へ申し納れました。

若井氏は私の申し納れを大分不機嫌な顔をして聞いておりましたが、その話はそれとして、何よりまずその荒彫りを見せて頂こういいますから、私は風呂敷を解きました。

すると、中から彫刻の矮鶏が出て来たので、若井氏はそれを見ていましたが、急に機嫌が直ったような様子になった。

「どうも、これはおもしろい。これはよく出来ました」

そういって感心したような顔をしている。そして手に取って打ち返しなどして視た後で、

「高村さん、あなたのお話はよく分りました。ですが、私はお約束を解きませんよ。博覧会の日限は一月の船が積み切りで、もはや間に合いません。しかし、それは、それでよろしゅうございます。今後、あなたが何時これをお仕上げになるか分らんが、この矮鶏は出来次第私が頂戴することに願います。それから、此金は、木の代と

いうつもりで差し上げて置いたのですから、私へお返しになることはいけません。それに今夜は大晦日ですよ。お入用のことがあったら、後をお持ちになって下さい。差し上げましょう」というような訳となって、若井氏は少しも私の日限に遅れたことを咎め立てをせず、製作を見て、何所か気に入ったものと見え、私に対して厚意をもっていろいろいうてくれました。

これは思うに、若井氏が荒彫りを見て、これならと思ったよりも、同氏の気性が私の気持をよく理解しておもしろいと思ったことが手伝ったのでありましょう。とにかく、私には好い気持な人だという感を与えてくれました。で、私は厚意を謝し、この矮鶏は製作は出来るだけ早く仕上げて若井さんにお渡ししようという考えで、その約束をして、私は持って参ったものを、また元の通り持って帰りました。

大晦日のことで、私も随分入用の多い時、それを耐えて返済しに行ったのですが、話が一層進んで帰って来たのですから、その金を諸払いに使い、都合がよかったことでありました。

明けて明治二十二年、一月、二月何事もなく鶏の仕上げを続けておりました。

青空文庫情報

底本：「幕末維新懐古談」岩波文庫、岩波書店
　　1995（平成7）年1月17日第1刷発行
底本の親本：「光雲懐古談」万里閣書房
　　1929（昭和4）年1月刊
入力：網迫、土屋隆
校正：noriko saito
2007年2月15日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

幕末維新懐古談

矮鶏の製作に取り掛かったこと

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　高村光雲
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/